

校長室から
(R元年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 60

令和2年1月8日(水)発行

行動が社会を変える

新しい年が明けました。今年はオリ・パライヤー、夏には東京オリンピックとパラリンピックが開催されます。オリンピックが東京で開催されるのは2回目、前回のオリンピックは56年前の1964年に開催されました。このとき同時に、世界で初のパラリンピックが開かれたことをみなさん知っていますか。そうです。東京は、パラリンピックを2度開催する世界で初めての都市になります。パラリンピックはパラプレジアという脊髄(せきずい)を傷つけ下半身が麻痺してしまう病名にちなんでつけられましたが、その後、ギリシャ語で平行という意味の「パラ」、つまり「もう一つのオリンピック」として意味づけられました。この世界初のパラリンピックを創った人「日本のパラリンピックの父」と言われている方が「中村 裕(ゆたか)」医師です。

実はこの冬休み、録画してたまっていたテレビ番組を観たのですが、その中に昨年の8月、NHKのBSで放送されたスペシャルドラマ「太陽を愛したひと〜1964年あの日のパラリンピック〜」という中村医師の物語がありました。中村医師に興味があり、ついつい引き込まれて観てしまいました。

中村医師は整形外科医でした。当時日本では、障がいのある人を保護することはあっても、スポーツをさせたり仕事をさせたりするという考えはありませんでした。今では当たり前のリハビリという言葉さえありませんでした。その中で中村医師は、歩けなくても手足が不自由でも、スポーツをすることの大切さや仕事をする場を創ることの重要性を訴え続けました。



今までの日本中の人々の当たり前を180度変えるのですから、並大抵の努力ではなかったかと思います。しかし、中村医師はあきらめません。「No Charity, but a Chance(保護より機会を)」「障がいのある人が生き生きと笑顔になるようにする」という信念や理想をまげず、日本中いえ世界中を飛び回り粘り強く説得し続けます。そして多くの困難を乗り越え、障がい者スポーツの祭典パラリンピック開催を実現したのです。さらにこの後、中村医師は障がいのある人が働く工場「太陽の家(大分県別府市)」も創っています。

中村医師のすごいところはどこでしょう。それは行動力です。私たちは、知っていてもやらない。やりたいと思ってもなかなか始められない、やり始めても続かないことってありませんか。中村医師は、常識という日本中の人々が当たり前と考えていたことを全く塗り替える行動力を発揮したのです。一人の行動が日本の社会を変えました。中村医師は自分の信念を持ち続け、行動し、やり抜くことで、社会を変えたのです。

この夏、東京で2度目の開催となるパラリンピック、「常識を破らなければ前進しない」と言った中村医師の信念と行動力を感じて観戦してほしいと思います。

<故 中村博士について>

中村裕(ゆたか)博士は大分県別府市に生まれ、1951年九州大学医学専門部を卒業後同大学の整形外科医局に入局しました。故天児民和名誉教授の指導の下(もと)、当時未開の分野であった医学的リハビリテーション研究の道を歩み始めました。さらに、英国のストーク・マンデビル病院に留学し、ルードヴィッヒ・グットマン卿の教えを請いました。

そこではリハビリテーションにスポーツを取り入れ、医師がさまざまな分野の人と連携して、脊髄損傷者の社会復帰を支援していました。このことに衝撃を受けた博士は、身体障がい者の社会参加、特に仕事を通じての自立とスポーツに情熱を注ぐことになりました。

博士は、1964年東京パラリンピックにて日本選手団団長を務め、評論家の秋山ちえ子氏や作家の水上勉(みずかみつとむ)氏との出会いなど数々の経験から、障がい者は仕事を持ち自立することが最も必要であるという信念に至りました。そして「保護より機会を!」、「世に身心(しんしん)障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」という理念の下、1965年太陽の家を創設しました。

(社会福祉法人 太陽の家ホームページより)



故(こ) 中村裕博士

- | | | | |
|---|----------------|---|---------------|
| ひ | とつにみんなでまとうろう! | あ | いさつができる子 |
| が | くりょくと体力をのばそう! | い | っしょうけんめい勉強する子 |
| し | っかりせいかつしよう! | う | んどうが好きな子 |
| な | かよく友だちとすごそう! | え | がおでやさしい子 |
| ら | んらん夢に向かう東奈良っ子! | お | そうじをがんばる子 |